

弘前大学学報



弘前大学ねふた

第 65 号
平成21年8月号

学内ニュース

○「学長と新入生の保護者との懇談会」を実施	-----	1
○”ねふたまつり”に連続46回目の出陣 ～弘前ねふた保存会会長賞も受賞～	-----	2
○第1回弘前大学国際シンポジウム 弘前大学大学院保健学研究科 「緊急被ばく医療国際シンポジウム」を開催	-----	3
○平成21年度9月期外国人留学生研修修了証書授与式举行	-----	4
○第2回研究テーマ募集事業「科学者発見プロジェクトテーマ賞」表彰式 第1回共同研究体験発表会を開催	-----	5
○オープンキャンパスを開催	-----	6
○弘前大学ねふた実行委員会に弘前大学表彰を授与	-----	7
○弘前大学で第12回国立大学法人等監事協議会東北支部会開催	-----	8
○第16回青森県留学生交流ジャンボリー開催	-----	9

諸会議

-----	10
-------	----

人 事

○人事異動	-----	11
-------	-------	----

主要日誌

-----	12
-------	----

学内規則

-----	13
○ 弘前大学医学部規程の一部改正	
○ 弘前大学医学部附属病院科長会規程の一部を改正	

「学長と新入生の保護者との懇談会」を実施

本学では、学生の保護者への情報提供、連携体制の強化を図ることを目的として、7月4日～7月25日までの間、新入生の保護者を対象とする懇談会を実施しました。

懇談会は、学長が4地区（弘前、札幌、仙台、東京）に出向き、弘前大学の現状、教育体制、就職支援体制及びクラス担任制度・相談コーナー等学生への諸支援体制などについて説明し、4会場で合計189名の出席がありました。

質疑応答では、学生の成績表の通知、就職支援の取組、学生寮についてなど学生生活についての質問・要望等活発な意見交換が行われました。

この懇談会の実施により、保護者の方々の本学に対する理解が深められるとともに、学外者からの視点で見た弘前大学に対する意見、要望・提案等を伺うことができ、今後の管理・運営の一助となりました。



遠藤学長と説明に聴き入る保護者の方々（東京会場）

“ねふたまつり”に連続46回目の出陣 ～『弘前ねふた保存会会長賞も受賞』～

津軽の風物詩「弘前ねふたまつり」が8月1日から7日間行われ、今年も弘前大学の「ねふた」が参加し、昭和39年初参加以来、46年連続の出陣を果たしました。今年は、8月1日、3日、5日の三夜の合同運行へ出陣しました。

運行には、遠藤学長、藁科理事、渡辺理事をはじめ、各理事や各部局長を先頭に教職員、留学生、附属学校の児童・生徒、附属幼稚園の園児、近隣町会の子供たちなど延べ約1,000人が参加、「ヤーヤドー」の掛け声も勇ましく、夕暮れから約3時間余り市内を練り歩きました。小型ねふたや灯籠を従えた極彩色の鏡絵「于吉仙人の霊孫策を悩ます」、見送り絵「呉夫人」、袖絵『風神・雷神』を描いた高さ約7mの勇壮なねふたは、沿道の市民・観光客から大喝采を浴びました。

また、岩手大学と弘前大学の国立大学間の連携、協力を強力に推進するため、平成15年から大学相互の祭（盛岡さんさ踊り、弘前ねふた祭り）交流を行い、地域文化の相互理解を図っており、8月5日は、岩手大学の倉田理事が遠藤学長と共に、弘前大学の「ねふた」の先導を務め、大学間の連携をアピールしました。

さらに、本年は、『弘前ねふた保存会』より、本学ねふたが、①大学として昭和39年以来46回にわたり他の国立大学に先駆け地域の祭に参加し続けていること、②参加当初からのねふた絵を保存しており、このねふた絵を大学出版会から画集として出版していること、③多くの留学生がねふたに参加し、国際交流を図っていることなどが評価され、『弘前ねふた保存会会長賞』を受賞しました。



学長、理事等による出陣式の鏡割り



先導を務める遠藤学長（右）と倉田岩手大学理事（左）



観客を魅了する大太鼓



勢揃いした勇壮な弘前大学ねふた

第1回弘前大学国際シンポジウム 弘前大学大学院保健学研究科「緊急被ばく医療国際シンポジウム」を開催

弘前大学大学院保健学研究科では、弘前大学創立60周年記念事業の一環として「放射線基礎研究から緊急被ばく医療まで」をテーマに第1回弘前大学国際シンポジウム「保健学研究科 緊急被ばく医療国際シンポジウム」を8月1日（土）、弘前大学医学部コミュニケーションセンターで開催しました。

同研究科では、多くの原子力関連事業所が集中している青森県における緊急被ばく事故の被害に対する安全、安心の確保、原子力関連企業従事者の医療リスク管理システムの構築及び被ばく医療に対応できるメディカルスタッフの養成を目指し、平成19年度から緊急被ばく医療人材育成の取組みを開始。平成20年度からは文部科学省特別教育研究事業「緊急被ばく医療人材育成及び体制の整備」として実施しています。

今回のシンポジウムは、独立行政法人放射線医学総合研究所、財団法人環境科学技術研究所、独立行政法人日本原子力研究開発機構と共催し、青森県及び弘前市の後援により開催したもので、関係機関から約140名が出席。同研究科における「緊急被ばく医療人材育成プロジェクト」の成果発表のほか、フランスをはじめ国内外の関係機関から14名のシンポジストを迎え、放射線基礎研究、国内外の被ばく事故例や取り組みなど、六つのテーマについて講演が行われ、活発な質疑応答が行われるなど、参加者らは知識を深めました。

また、前日には、ウェルカムレセプションが開催され、シンポジストら関係者と同研究科の教員が今後の連携推進に向けて情報交換を行ったほか、シンポジウム終了後は、同日から開幕された弘前ねぶた祭りに出陣した弘前大学のねぶたに参加し、交流を深めました。



開会の辞を述べる遠藤学長



閉会の辞を述べる対馬研究科長



講演に耳をかたむける参加者



シンポジストとの記念撮影

平成21年度9月期外国人留学生研修修了証書授与式挙行

本学で学ぶ外国人留学生の平成21年度9月期研修修了証書授与式が、8月3日（月）、事務局大会議室において行われ、本学における研修修了の中国、韓国、タイ、ドイツ、ルーマニア、フランス、ハンガリー、アメリカの世界8か国からの留学生33名に対し、修了証書（和文・英文）が授与されました。

授与式には、留学生、指導教員等が出席し、遠藤学長から出席した25名の留学生一人一人に修了証書が手渡されました。引き続き、学長から、日本の伝統的夏祭りである弘前ねぷたをはじめとする伝統的文化に触れ、多くの友人を得た留学生に対し、帰国後も弘前大学の発展ぶりを見守りつつ、本学で学んだことを十分に生かし、それぞれの分野で活躍することを期待するとともに、国際交流の橋渡し役としてがんばっていただきたい旨の挨拶と教育・指導にあたった関係教職員への謝辞がありました。



遠藤学長から修了証書を授与される留学生



授与式出席の留学生並びに関係教職員

第2回研究テーマ募集事業「科学者発見プロジェクトテーマ賞」表彰式 第1回共同研究体験発表会を開催

弘前大学は、平成21年8月4日、弘前大学創立60周年記念会館「コラボ弘大」において、第2回研究テーマ募集事業「科学者発見プロジェクトテーマ賞」の表彰式を行いました。本事業は、日常のささいな「疑問や興味、アイデア等」を青森県内の小・中・高生に広く求め、その提案に基づいた研究テーマを本学研究者と共に体験する双方向的な試みであり、この事業により行われる交流は弘前大学の地域貢献の一環でもあります。

発展性、意外性、独創性に優れた研究テーマ「お腹がすくとなぜイライラするのか（小学校6年生）」をはじめ、13件（小学校3件、中学校5件、高校5件）が「科学者発見プロジェクトテーマ賞」に採択されました。表彰式では、学校関係者及び保護者などが見守るなか、遠藤弘前大学長の挨拶、加藤弘前大学理事の講評の後、受賞者を代表して、中泊町立薄市小学校第5学年のみなさんから受賞のお礼がありました。

引き続き、第1回共同研究体験発表会が行われ、「農業による水素生産及び燃料電池への利用」（青森県立名久井農業高等学校）等6件の研究成果が発表され、その充実した内容は本事業が目指す未来の「小さな科学者」を期待させるものでありました。子どもたちにとっては、自身が提案した研究テーマの「謎を解き、関心事を探求するプロセス」を研究者と共に体験することで大学をより身近に感じ親しみをもってもらい、また研究者にとっては思いもよらない視点での疑問やアイデアを知り、研究活動の良い刺激となりました。



「テーマ賞を受賞し、笑顔の中学生」



「テーマ賞受賞者及び共同研究体験者の皆さん」

オープンキャンパスを開催

8月7日（金）「弘前大学オープンキャンパス」を開催しました。県内外の高校生、保護者等を含めて、4,450名が参加しました。

オープンキャンパス実施3日前、本学学生が新型インフルエンザに感染したことが確認され、参加者にマスクの携帯をホームページで呼びかけるとともに、全学部に消毒液を設置し、新型インフルエンザ発症者及び濃厚接触者等はオープンキャンパスを担当させないこととしました。更に、密閉小空間での行事を行わない、行事実施場所の出入口を開放するなど換気を十分に行うようにするとともに、全担当者は事前に健康チェックを行うなど感染予防に万全を期しました。

オープンキャンパスでは、模擬講義、実験実習体験、なんでも相談コーナー、「先輩と語ろう」コーナー等、多彩な企画を準備しており、参加者は様々な企画に参加して、弘前大学の雰囲気を肌で感じとっていました。

また、キャンパス内の歴史的な建物や各学部を紹介するキャンパスツアーの実施、総合情報コーナーでは、高校生らの関心が高い入試情報、奨学金、学生寮、就職情報等について担当者がわかりやすく説明を行いました。

毎年恒例となった特別企画「学長と話そう」は、本年度も盛況で、遠藤学長が多くの高校生らと懇談を行い、本学の教育理念、魅力などについて理解を深め、本学への進学意欲を高めていました。



キャンパスを散策する高校生等



恒例となった「学長と話そう」コーナー



動物・昆虫標本を見学する高校生



実験風景

弘前大学ねふた実行委員会に弘前大学表彰を授与

弘前大学では、弘前ねふた祭りへの参加を通じて、地域住民との交流等を図ることを目的とし、弘前大学ねふた実行委員会（代表：亀谷 禎清 委員長）を組織して毎年ねふたを制作・運行し、今年も昭和39年から46年連続で出陣して祭りを盛り上げました。

弘前大学ねふた実行委員会の長年に渡る活動は、本学の社会活動や地域活動において多大な貢献をしたと認め、弘前大学表彰を贈ることを決定し、この度、8月24日（月）に弘前大学ねふた実行委員会に表彰状と記念品が授与されました。



薫科理事（右）から表彰状及び記念品を受け取る亀谷委員長



表彰式終了後の記念撮影

弘前大学で第12回国立大学法人等監事協議会東北支部会開催

8月28日（金）、弘前大学において第12回国立大学法人等監事協議会東北支部会が開催されました。会議には、文部科学省高等教育局国立大学法人支援課の蝦名喜之企画官を招き、東北支部の7つの大学から監事12名が出席して行われました。

議事に先立ち、蝦名企画官から、国立大学法人等をめぐる最近の動向について講演があり、概算要求基準や運営費交付金配分の考え方について質疑応答がありました。

引き続き、第1期中期目標・計画期間での監事監査の到達点と課題、大学の内部統制のあり方などについて、各大学の現状を踏まえて活発な意見交換が行われました。



会場の様子



開会の挨拶をする代表世話人の中原岩手大学監事



議事に先立ち講演する蝦名企画官

第16回青森県留学生交流ジャンボリー開催

青森県留学生交流推進協議会主催（当番校：弘前大学）の第16回青森県留学生交流ジャンボリーが、8月28日（金）、29日（土）の2日間にわたって、初秋の十和田湖、津軽地方を会場に開催されました。

このジャンボリーは、県内高等教育機関在籍の留学生が、青森県の伝統的文化や自然に親しむとともに、日本人学生、国際交流関係者及び地域住民との交流を深めることによって、帰国後も青森県との親善の架け橋となってもらうことを目的に開催されているもので、青森県内留学生52名（弘前大学31名、青森大学8名、青森中央学院大学12名、八戸工業大学1名）及び日本人学生（弘前大学）2名並びに国際交流関係者12名が参加しました。

28日は、各機関参加者が青森駅に集合後、モヤヒルズを経由するなどして、奥入瀬溪流石ヶ戸に到着し、清涼感溢れる奥入瀬溪流（石ヶ戸～阿修羅の流れ～雲井の滝）を散策し、奥入瀬の大自然を満喫しました。

さらに、一行は、子の口から遊覧船に乗船し、休屋まで十和田湖上遊覧を楽しみました。カルデラ湖独特の湖水の蒼さと、湖面から高くそそり立つ絶壁の織りなす勇壮な十和田湖の景観に息のみました。

引き続き、十和田湖畔休屋のホテルにおいて留学生との交流会が開催され、留学生と日本人学生、国際交流関係者が膝を交え和やかに歓談し、親睦を深めました。

翌29日は、平川市立尾上中学校において、校長先生はじめ教職員、生徒の暖かい出迎えを受け、同校との交流会が体育館において盛大に開催されました。

最初に、国際交流センター長の挨拶、同校生徒会長による歓迎の挨拶の後、尾上地区八幡崎獅子踊り保存会による地域伝統芸能「獅子踊り」が披露され、歓迎ムードが高まりました。続いて、本学の協定校留学生による出し物が披露されました。タイ出身留学生による母国紹介のスライドショー及びタイ伝統舞踊、韓国出身留学生による韓国伝統音楽演奏が披露されると、会場は一気に国際色豊かな雰囲気になり、大いに盛り上がりました。最後に、当日文化祭期間中でもあった尾上中学校の校内見学をしました。留学生達は中学生達の作成した様々な展示物を興味深げに鑑賞していました。

尾上中学校との交流会を終えた一行は、田舎館村へ向かい、田舎館村役場天守閣からの田んぼアート「戦国武将とナポレオン」の壮大なスケールの眺望を思う存分楽しみました。

今回参加した留学生にとって、十和田の自然を肌で感じ、県内中学生との交流を通して日本の地域伝統文化・芸術への理解を深めたことは、青森県における有意義で楽しい思い出になりました。



奥入瀬溪流散策



尾上中学校から歓迎の挨拶を受ける留学生

■ 諸 会 議

▼役員会

8月3日（月）

審議事項

- 1 弘前大学男女共同参画宣言等について
(1) 弘前大学男女共同参画宣言及び弘前大学男女共同参画推進基本計画について
(2) 国立大学法人弘前大学管理運営規則の一部改正について
(3) 弘前大学男女共同参画推進室運営規程の制定について
- 2 医学部入学定員の増加について
- 3 国立大学法人弘前大学自家用電気工作物保安規程の一部改正について
- 4 平成21年度戦略的経費等事業計画について
- 5 省エネルギー計画について
- 6 青森県産業技術センターとの包括協定について
- 7 北日本新エネルギー研究センターと東北大学金属材料研究所との連携協定について

報告事項

- 1 平成21年学長裁量経費事業計画について
- 2 平成21年度北東北国立3大学連携推進研究プロジェクトの採択決定について

8月25日（火）

審議事項

- 1 国立大学法人弘前大学事務組織規程の一部改正について
- 2 弘前大学医学部附属病院科長会規程の一部改正について
- 3 青森県産業技術センターとの包括協定について
- 4 北日本新エネルギー研究センターと東北大学金属材料研究所との連携協定について
- 5 青森キャンパス構想について

報告事項

- 1 平成20事業年度に係る業務の実績報告書に関するヒアリングについて
- 2 新型インフルエンザへの対応について
- 3 研究拠点形成費等補助金（「教育研究高度化のための支援体制整備事業」採択分）
交付決定について
- 4 地域産学官共同研究拠点整備構想について
- 5 「弘前大学六十年史」通史・資料編の刊行について

8月31日（月）

審議事項

- 1 弘前大学大学院理工学研究科規程の一部改正について
- 2 弘前大学農学生命科学部規程の一部改正について
- 3 弘前大学大学院農学生命科学研究科規程の一部改正について
- 4 国立大学法人弘前大学知的財産ポリシーの一部改正等について

報告事項

- 1 津軽地域における産学連携に係る意見交換会及び「コラボ弘大」披露目式の開催について
- 2 放射性同位元素等に関する点検及び報告について

人 事 異 動

[採用]

発令年月日	現職(所属)	氏名	異動内容
平成21年8月1日		宮崎 龍平	一般職員(総・総)
平成21年8月1日		石川 直哉	一般職員(学情・社)
平成21年8月1日		工藤 茂将	助教(医) [平成26年7月31日まで]
平成21年8月17日		大川 千佳子	教諭(教・附中) [平成21年9月27日まで]
平成21年8月27日		中村 裕美子	養護教諭(教・附特) [平成21年10月7日まで]

[配置換]

発令年月日	現職(所属)	氏名	異動内容
平成21年8月1日	主任(財・財企)	齋藤 登紀子	主任(人文)
平成21年8月1日	一般職員(学情・社)	吉田 富嗣	一般職員(総・人)
平成21年8月1日	一般職員(人文)	齋藤 めぐみ	一般職員(財・財企)

[復職]

発令年月日	現職(所属)	氏名	異動内容
平成21年8月1日	教諭(教・附小)	工藤 晶子	育児休業より

[育児休業]

発令年月日	現職(所属)	氏名	異動内容
平成21年8月27日	看護師(病・看)	松木 美佳	平成22年8月31日まで

[退職]

発令年月日	現職(所属)	氏名	異動内容
平成21年8月7日	看護師(病・看)	木谷 奈保子	退職
平成21年8月31日	看護師(病・看)	山谷 美代子	退職

■ 主要日誌

- 8月1日 ねふた参加日
留学生ねふた交歓会
- 3日 役員会
ねふた参加日
学校図書館司書教諭講習
- 5日 ねふた参加日
北東北国立大学夏祭り（ねふた）交流会
- 7日 オープンキャンパス
ねふた解体作業
- 15日 国際交流夏祭り
- 24日 役員会

■ 学内規則

(平成21年8月7日改正)

○弘前大学医学部規程

以下の理由により、この規程の一部を改正した。

- ① 被ばく医療に関する教育を実施することに伴うカリキュラムの整備を行う。
- ② カリキュラムの充実を図るため、作業療法学専攻の科目名変更を行う。
- ③ 学生が授業科目を履修し易くするため、開講年次の整備を行う。

(平成21年8月25日改正)

○弘前大学医学部附属病院科長会規程

医学研究科臨床薬理学講座が廃止されたため、この規程の一部を改正した。

弘前大学学報第65号

弘前大学総務部総務課
036-8560 弘前市文京町1
電話 (0172) 36-2111